

「認知症サポーター養成 出前オンライン講座」を初開催 ～市内企業の従業員約120名が参加～

7月20日（火）、市は「認知症サポーター養成 出前オンライン講座」を初めて開催しました。

これは、株式会社リコーの風土改革活動「LCA(エルシーイー) (Lively Challenge Activity : いきいきチャレンジ活動)」で介護と仕事の両立サポートに取り組むチームの要請に応じて実施したもので、海老名市では初となるオンラインで開催。リコーテクノロジーセンター（泉2-7-1）を拠点に開催し、北海道から九州まで約120名の従業員が、各事業所や自宅で受講しました。

講習会では、市職員と地域包括支援センター職員が講師となり、認知症の方への対応方法などを講義したほか、介護の体験談などを話し「介護はチームで行うもの。辛い時は周囲を頼ってほしい。」と伝えました。

また、主催した「LCA」介護チームのメンバーは「介護離職は、実際に私たちの職場にもあります。認知症を正しく理解して、介護を理由に退職することがない職場環境づくりを目指したい」と話しました。

講習会終了後には、「認知症サポーターカード」と「オレンジリング」を受講者に配布しました。



オンライン講習会の様子



「認知症サポーター」とは

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対して、できる範囲で手助けする人のことです。海老名市は「認知症の人やその家族に優しいまちえびな」を目指します。



◎この件に関するお問い合わせ

海老名市保健福祉部地域包括ケア推進課 電話046・235・4950

